

# 平成31年度学校自己評価システムシート ( 県立 川口青陵 高等学校 )

## S25

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校
--------	--------------------------------------

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒に「学ぶ楽しさ」を体験させることで、「主体的・対話的で深い学び」を促す。 2 基本的な生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、3年間を見通した進路指導を実現する。 3 学校の情報発信と地域との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
学 校 目 標				年 度 評 価 ( 2月5日 現在 )			
年 度	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	
1	<p>【現状】 ○生徒の学習時間の確保とさらなる増加に結びつくような授業の進め方の改善や教員相互授業観察を実施するなどとして、指導力向上が求められている。 ○資格取得に取り組んでいるが、上位級の合格者を増やしたい。</p> <p>【課題】 ○「学ぶ楽しさ」をもっと体験させ、協調学習等のアクティブラーニングに積極的に取り組む。生徒自身の学習スケジュール等の自己管理を強化させる。 ○研究授業や教員相互授業観察を実施し、教員研修を推進し指導力向上に努める。</p>	<p>○学習意欲を高め、伸びる生徒をさらに伸ばす。</p> <p>○組織的な学習支援体制を充実させることにより、各教員の指導力向上を目指す。</p>	<p>①青陵ゼミナールなどの講習や勉強会の参加を呼びかけ、生徒の進路実現につなげる。 ②資格取得を目指させ、「川口青陵アワード」を積極的に広報し、奨励する。 ③「総合的な探究の時間」について本校の方針を定めて教材や指導内容等を検討し、3年間の指導計画を策定する。</p> <p>①県事業による研修会や外部機関による授業力向上セミナー等への教員参加を奨励する。 ②教員相互授業観察の実施やICT機器の活用により指導力向上を図る。</p>	<p>①青陵ゼミナールなどの開講状況と生徒の参加数 ②「川口青陵アワード」受賞数10%以上。資格取得者数(3級以上)の増加。 ③「総合的な探究の時間」の指導計画を策定できたか。</p> <p>①授業力向上に係る県教委や民間団体主催の研修会等の参加状況。 ②教員相互授業観察を平均3回以上実施の継続。年次研および未来学び研究開発にて研究授業を実施。教室プロジェクターの整備。</p>	<p>各生徒の進路希望に対応した指導を継続的に取り組めた。 ①青陵ゼミナール、看護医療系進路希望者補習、英検・GTEC対策講座などの進路希望に応じた講座を開講。参加呼びかけ等には工夫が必要であった。「朝学習」にしっかり取り組んでいる。」78.8%(昨年86.8%) ②青陵アワード受賞10.5%(13.4%) ③1年生からの探究活動の計画概要は策定できた。</p> <p>指導力向上のための具体的な取組は実施できた。 ①②研究授業を初任研・5年研・20年研で実施。教員相互授業観察はほぼ全員の教員が1回は観察できた。「授業はわかりやすい。」75.3%(昨年76.5%)の回答。教室プロジェクターの整備ができた。</p>	B	<p>進路に応じた講座を開講しながらも、参加を促すしなげを考える必要がある。 朝学習から1限目授業への流れの中で落ち着いた状況が定着してきている。今後は朝学習の内容面を考えながら、学力向上への有効な運動と組織的な取組に改善していくことが課題である。 資格取得を奨励しているが、より上位資格へ挑戦する気持ちの醸成に至っていない。青陵アワードの手続きや内容を見直ししながら、資格取得を奨励し、継続して指導していく。 授業公開や研究授業を実施し、授業改善に役立てた。教員相互授業観察を行い、教員の指導力向上に努めた。外部の公開授業の見学を促し、さらなる指導力向上に取り組む。</p>
2	<p>【現状】 ○進路指導部を中心に青陵ゼミナール等、進学希望者対象の講習を、年間を通して実施し、3年間を見通した進路行事計画により実践されている。 ○基本的な生活習慣が確立され、生徒が落ち着いた学校生活を送れるようになった。 ○生徒が主体的に取り組む、学校行事が盛んになってきた。</p> <p>【課題】 ○生徒進路実現のため、3年間の計画的で組織的な取組を実践していく。地元企業の見学機会をもっと作る。 ○今後も基本的な生活習慣が確立された学校生活を継続させる。 ○学校行事において生徒の主体的な取り組みをさらに増やす。部活動加入率の向上と活動実績の向上を目指す。</p>	<p>○新しい入試制度に対応し、3年間を見通した進路指導の充実を図る。</p> <p>○基本的な生活習慣を確立させるため、生徒指導の充実を図る。また、命の大切さを認識させる。</p> <p>○学校行事に主体的に参加させ、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①「学びの基礎診断」を実施し、民間のツールを有効活用する。また、多様な進路選択に対応した面接指導等を実施する。 ②手帳活用によるスケジュールの自己管理と記録の機会を設定して学習習慣を定着させる。</p> <p>①整容指導を実施し、挨拶を励行する。 ②交通マナーを徹底させ、自転車やバイク乗車に係る交通安全教育を充実させる。</p> <p>①体育祭や文化祭などの学校行事を主体的に取り組ませ、生徒の活躍の場を作る。 ②部活動体験プロジェクトを実施し、生徒の適性にあわせて入部を促進する。部活動リーフレットによるPRとHPで活動を紹介する。</p>	<p>①「学びの基礎診断」として認定されたベネッセ基礎力診断テストの実施。および学校評価アンケート「進路指導は充実している。」90%以上。 ②手帳の活用状況(記録の機会の設定状況)</p> <p>①学校評価アンケート「挨拶・言葉遣いができている」90%以上。 ②学校評価アンケート「服装や頭髪および交通ルールを守っている。」90%以上。</p> <p>①学校評価アンケート「学校行事に積極的に参加している」90%以上。 ②部活動の加入率75%以上。大会・コンクール等での実績や成果。</p>	<p>進路指導の充実のために民間ツールを活用し、計画的に取り組めた。 ①夏・冬・冬休業中等に資格取得や進路に応じた講座を全学年で実施。3学年進路未決定者2/5現在21名。「進路指導は充実している」86.2%(昨年度85.4%)で向上。 ②手帳甲子園を校内で実施し、活用を啓発できた。外部にも応募する機会を持たた。</p> <p>充実した生徒指導の取組により落ち着いた生活が送られている。 ①②生徒アンケート「挨拶・言葉遣いができている。服装・頭髪・交通ルールを守っている。」では昨年度に引き続き約95%が回答。校門指導を毎日実施。月1回全教員で一斉指導を実施。</p> <p>部活動・学校行事の活性化が図られている。 ①「学校行事に積極的に参加」89.7%(昨年86.2%) ②部活動加入率78.3%(75.8%)で向上。県大会での活躍も複数の部で見られた。2/3現在、HPトップページ177回更新。</p>	B	<p>今後も3年間を見通した進路行事計画により、生徒の第1希望の進路実現に向けて指導を継続していく。進路未決定者については、粘り強く指導を行っていく。 教育相談体制や外部機関とも連携し、各学年とも情報共有と共通理解を図りながら、全職員で生徒指導を実施している。今後も継続して規律を徹底させ、しっかりと学校生活を送れるよう指導していく。 HPで学校行事や部活動大会結果の情報発信を積極的に行い、部活動の加入率が向上してきている。生徒会活動とも連携し、生徒の活躍する場を増やし、生徒主体の学校行事を実施できている。今後も学校行事と部活動のさらなる活性化を目指す。</p>
3	<p>【現状】 ○PTA・後援会と連携し、学校行事を運営することができている。 ○地元3校と小高交流事業を実施し、生徒の自己存在感を高めることができています。</p> <p>【課題】 ○今後もPTA・後援会と連携して生徒の健全育成を図り学校運営に活かしていく。 ○小高交流事業等、地域への貢献活動を積極的に推進する。</p>	<p>○PTA・後援会との連携を強化する。</p> <p>○地域とのさらなる協働を図るとともに、魅力ある情報発信を行う。</p>	<p>①講演会等を実施してPTA総会への出席者を増やし、保護者の学校への理解を深める。 ②保護者アンケートでの意見や要望のうち可能なものを取り入れる。</p> <p>①小高交流やボランティア活動などを積極的に実施する。 ②生徒募集に資するように母校訪問、学校説明会や学校見学会の際に魅力ある情報発信を行う。</p>	<p>①学校評価保護者アンケート「本校に通わせてよかった。」(入学満足度)90%以上維持。 ②PTA・後援会役員の学校行事での参加者数。</p> <p>①小高交流事業を実施、ふれあいクリーン作戦などのボランティア活動の参加。 ②学校説明会や見学会参加者数の延べ1500人以上。</p>	<p>PTA・後援会との連携がうまくできている。 ①「本校に通わせてよかった。」(入学満足度)94.2%(昨年91.6%) ②学校行事に保護者が多く参加。体育祭では約200名の保護者が来校。</p> <p>地域貢献と情報発信がほぼ達成できた。 ①地元3校と小高交流事業を実施。また、ふれあいクリーン作戦を学期に1回は実施。 ②説明会・見学会延べ1478名参加。</p>	A	<p>PTA・後援会と連携して学校行事を運営することができ、保護者からの満足度が向上している。今後は保護者からの意見を受け止め、学校運営に活かしていく。 また、HPや中学校訪問等で積極的に情報発信を行い、小高交流事業やJRC部、生物部などの地域との取り組みを継続しながら、地域からの信頼を高めていく。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日	令和2年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学習時間をどのように確保し、主体的な取り組みへと変えていくかは今後の大きな課題である。アンケートの様子から徐々にだが、生徒が授業などに対して学校に要求をしていくような関係になってきたことがうかがえる。具体的には学習面においては授業の予習復習をもっと促してもらいたい。 授業は生徒をひきつけながら魅力的で工夫されたものが多かった。プロジェクターやタブレット等のICT機器を使った授業や、アクティブラーニング等の授業を引き続き行って、よりいっそうの「学ぶ楽しさ」を生徒に体験させられるように研修を期待したい。施設や人的な面で可能ならば、少人数授業等の実施を望む。</p> <p>中学校においては、進路希望や将来の就きたい職業に時代の変化をうかがわせるような変化が見られる。高校においては、今現在では現実的で大きな変化がないようであるが、時代の変化とともに生徒や社会の変化に対応した進路指導が求められると感じている。就職では、川口の企業の紹介コーナーなどを設置して、地元川口の多くの優良企業をもっとPRしていただきたい。川口には都内に負けないたくさんの魅力的な企業があるので、さらに目を向けていただきたい。 生徒指導面では、自転車の「ながら運転」がまだ多くみられる。特に学校から離れるにつれて、危険度が増しているようなので、教員側の指導も継続的に実施し、生徒会にも生徒への主体的な働きかけを期待したい。 部活動では、文化部において他校との交流活動などがもっとあってもよいと思う。さらなる部活動の活性化を期待したい。</p> <p>PTA・後援会とうまく連携し、部活動や学校行事を運営できていると思われる。外照明などの協力に加え、今後は外部からの支援協力依頼やトレーナー派遣などにおける支援を可能な限り検討していきたい。 小高交流事業や部活動のボランティア等の参加により、地域との連携も引き続き期待したい。</p>	